
終わらない砂時計。

くた

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

終わらない砂時計。

【著者名】

くた

【あらすじ】

「蘭の短い短編。蘭の切ない想いを砂時計にのせてみました。

東から西へと沈む太陽が、ほんの少しあま頭を覗かせて窓から淡い夕日を射しこませていた。

「ただいまー、蘭姉ちゃん」

左手にサッカーボールを持ち、右手でドアノブを回して部屋の中を覗く。するとソファに座っていた制服姿の上にエプロンをした少女が顔をあげた。

「あら、お帰りなさい。コナン君」

いつもの様に変わらずに一つと微笑むと、

またテーブルに頬杖をして手元にある何かに顔を向けた。

「？」

ガチャ、とドアを閉めて床にサッカーボールを置くと、蘭の近くに駆け寄った。

何をしてるんだ?と顔を覗かせると、蘭の視線の先には手の平サイズ位の砂時計があった。

「わあ、それ砂時計だね！…どうしたの？」

「ん？ さつき掃除してたら押入れの中についたの」

「へえー」

カタン、とひっくり返すと、中に入っている淡い水色の砂が、サラサラと流れていぐ。

そんな単純な作業を見ていると、ふいに上から声がふつてきた。

「「ナシくさんはこれ、どの位だと想つ？」

「時間が？」

「ナシく」

「うーん、3分くらいいじゃないかな」

「そつかあ」

サラサラ、サラ…。

少し生半可な返事をしたと思えば、またカタン、と砂時計をひっくり返した。

サラサラ

カタン

サラサラ

カタン…

事務所の中に、この一つの音だけが響いた。
夕日もだんだん沈んでいき、淡いピンクにだいだい色が混ざっている。

「う、蘭姉ちゃん？」

「ん？」

「…どうしたの？」

そう聞くと、砂時計から手を離して、せつと俺の顔を見た。
そして、

「これ。この砂が流れ落ちる間に、アイツが帰つてくれるんじゃないかなーって思つて」

やつ言い畢と、また同じ様に微笑んだ。

「…………。」

サラサラ

カタン...

「これ……あと何回ひつくつ返したら、アイツ帰つてくれるんだろ?」

カ
タ
ン。

(後書き)

初めまして。
くた、と申します。

今回とても短いですが、復帰がてら短編を書かせて頂きました。
蘭ちゃんの想いが上手く砂時計とリンクしていると嬉しいです。

もし宜しければ評価、感想、一言でも良いので下さるととても励み
になります。
どうぞ宜しくお願い致します^ ^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1623m/>

終わらない砂時計。

2010年10月19日09時55分発行